

インフォメーション

イベルメクチン使用を勧める東京都医師会会長 大手製薬会社が「ワクチンと新薬利権」で圧力か

新型コロナウイルスの変異株により医療崩壊がもたらされるなか、アメリカの救急救命医学領域の医師らによって結成されたFLLCC（アライアンス）が「新型コロナウイルスに有効」として使用を推奨しているイベルメクチンを、自宅療養者等に投与すべきだという声が東京都医師会をはじめ、全国の心ある医師から上がっている。

東京都医師会々々長の訴え

その筆頭が東京都医師会々々長の尾崎治夫氏だ。



東京都医師会々々長・尾崎治夫氏

果を調べた論文を発表しています。それによると、約3900人の医療従事者（職員及び学生）を対象に、イベルメクチン体重1キロ当たり0・3ミリグラムを3日間隔で2回投与した群、1回のみ投与した群、そして投与しなかった群の3つの群に分けて臨床試験を行った結果、イベルメクチンを2回投与された人は、新型コロナウイルス感染が83%減少したというのです。論文を発表したのは世界でも第一級の研究グループですから、非常に信頼性が高いものです。

本がイベルメクチンに区分されていることに

ルメクチンは新型コロナウイルスの治療・予防には効かないという見解で、疥癬などの皮膚病以外に使わせないとの意向が働いている。

つまり、新型コロナウイルスに使うと、いつても、実際にはメルクが出さなければ国内のイベルメクチン供給には結びつかない。医師がイベルメクチンの処方を書いても、薬局には薬剤がない。これでは事実上使えない。

「イベルメクチンだけでなくジェネリックも普及しない理由」

「イベルメクチンがすでに世界の多くの国で使われ、用法や用量、安全性・有効性などが確認されているのに、日本ではまだ臨床試験段階でそうはなっていない。このため、イベルメクチンは医薬品副作用の被害救済制度の対象になっていません。これでは医師は使にくい。しかし、そういう不安と不利な状況の中でも、イベルメクチンの効果を確信している医師たちの中には、自らの責任でイベルメクチンを処方している医師が出てきています。私は日本版EUA整備法を早く成立させてほしいと願っています。」

のグループ（FLLCC）が発表し、イギリスのイベルメクチン推奨団体（BIRD）などの医師グループは、多くの論文を総合的に分析したメタ解析から「効果あり」を確信し、世界中の医療現場にイベルメクチンを推奨しています。日本オリンピック委員会にも、東京オリンピックの開催にあたってイベルメクチンの有効使用をすべきだと伝えてきましたが、政府は何も対応しませんでした。」

「学術現場の研究や大学の先生にも問題があります。自らは何もやらないで、WHOのような国際機関や欧米の大きな保健機関が出した「イベルメクチンはコロナに効くかどうかは未確定」という見解を自分たちの見解にしていく人が多い。主体的にやらないで、人の意見だけで動いています。どうしてイベルメクチンが効果か効かないか、自分たちが確かめてやろうという気にならないのか。やりもしないで批判ばかりしている評論家や研究者・学者がいるのは嘆かわしいことです。日本のアカデミアはもっと積極的に貢献してほしいと思います。」

「世界では27か国、36件の臨床試験が行われており、イベルメクチンが予防・治療に効果が出ていると報告されています。だから厚生労働省も適応外を認めたいのです。効果がないと出ているなら通達は出さないでしょう。」

ルメクチンの効用とそれが普及しない背景についてこのように述べている。

「イベルメクチンの利点は飲むのが簡単で、服用回数も少なくすむこと。ワクチンは変異株にも効かなくなることがある。イベルメクチンが売れない、と考える人もいるのではないのでしょうか。」

「私が、イベルメクチンを承認させ、もっと生産して欲しい」と持ちかけたとき、メルクは「やらない」とはつきり言いました。自分たちが開発しているワクチンが何種類かあった手は回らない。その後、2月4日の「コロナに効く」という根拠がない」という発表を見て、メルクはイベルメクチンが使われては困るといって考えた、と悟りました。人命にかかわる問題以外に、お金にかかわる問題がからんでいるのだから。」

「世界では27か国、36件の臨床試験が行われており、イベルメクチンが予防・治療に効果が出ていると報告されています。だから厚生労働省も適応外を認めたいのです。効果がないと出ているなら通達は出さないでしょう。」

ユード、イベルメクチンが抑圧されている理由について

①ワクチンで感染拡大を抑えようとしているところにイベルメクチンが登場すれば、ワクチンを接種する人が少なくなってしまう恐れがあるから。

②ワクチンを製造している大手製薬会社や新薬を開発している企業にとっては、イベルメクチンのような安価な薬が出回れば新薬が売れなくなるから。

③「イベルメクチンを使わせない」と公言しているWHO（世界保健機関）やNIH（米国国立衛生研究所）などは、大手製薬会社から資金の援助を得て運営しており、安価なイベルメクチンで大手製薬会社の利益がなくなるとその資金が入ってこなくなるから、と断じている。

また、ある製薬会社の関係者もこのように指摘している。

「メルクはワクチンの開発に失敗したのち、新治療薬候補のモルヌピラビルの治療を進めています。イベルメクチンは1錠671円なのに対し、新薬は1錠数万円で売れますから、そちらを推したい気持ちはあるでしょう。レムデシビルも1人が24万円です。廉価なイベルメクチンが有効だとわかっただけで、新薬は必要になって、すでに投入した開発費なども回収できなくなりますから」（週刊新潮2021年3月25日号）

め中毒症状で病院に運ばれる人の報告も相次いでおり、FDA（アメリカ食品医薬品局）は新型コロナウイルスの予防・治療に使わないように警告を出している。などという類いのものだ。

そもそも人間の何倍もの体重がある馬や牛などの家畜用の医薬品は高濃度のものが多く、それを人間が服用すれば中毒症状がでるのも当然である。だからといって人用のイベルメクチンが危険という話にはならない。

北里大学教授で大村智記念研究所感染制御研究センター長の花木秀明氏は自らのツイッターで、こう非難している。

「馬用のイベルメクチンで中毒者が著しく増えているとの記事がありました。わざわざ、『馬用』という単語を外して中毒のみを強調している方がいました。それも元記事が捏造で、そんな患者さんがいなかったと、当該病院は明言しています。こんなプロパガンダに加担して何がしたいのですか？」

また、ある製薬会社の関係者もこのように指摘している。

「メルクはワクチンの開発に失敗したのち、新治療薬候補のモルヌピラビルの治療を進めています。イベルメクチンは1錠671円なのに対し、新薬は1錠数万円で売れますから、そちらを推したい気持ちはあるでしょう。レムデシビルも1人が24万円です。廉価なイベルメクチンが有効だとわかっただけで、新薬は必要になって、すでに投入した開発費なども回収できなくなりますから」（週刊新潮2021年3月25日号）

本年8月5日、元読売新聞論説委員で、認定NPO法人「21世紀構想研究会」理事長・科学ジャーナリストの馬場錬成氏が尾崎会長に緊急インタビューした内容が読売新聞オンライン版（2021年8月19日配信）に掲載された。（https://www.yomiuri.co.jp/choken/kijiroko/cknews/20210818-OYT8T50030/）

「今、イベルメクチンを使い、東京都医師会の尾崎治夫会長が語ったその効果」と題された記事によれば、尾崎会長は次のように述べている。

「日本では以前から皮膚病の疥癬などに、『ストロメクトール』という商品名でイベルメクチンが適応薬として承認されており、『適応外』として新型コロナウイルスの治療にも承認する通達を出しています。」

「世界では27か国、36件の臨床試験が行われており、イベルメクチンが予防・治療に効果が出ていると報告されています。だから厚生労働省も適応外を認めたいのです。効果がないと出ているなら通達を出さないでしょう。」

「医師でもある中島議員が中心になって衆議院に提出した日本版EUA整備法案が成立すれば、ジェネリック製剤も使用できるでしょう。現時点では政府は全く動いていないのではないでしょうか。」

「イベルメクチンが売れない、と考える人もいるのではないのでしょうか。」

「私が、イベルメクチンを承認させ、もっと生産して欲しい」と持ちかけたとき、メルクは「やらない」とはつきり言いました。自分たちが開発しているワクチンが何種類かあった手は回らない。その後、2月4日の「コロナに効く」という根拠がない」という発表を見て、メルクはイベルメクチンが使われては困るといって考えた、と悟りました。人命にかかわる問題以外に、お金にかかわる問題がからんでいるのだから。」

「イベルメクチンが売れない、と考える人もいるのではないのでしょうか。」

「私が、イベルメクチンを承認させ、もっと生産して欲しい」と持ちかけたとき、メルクは「やらない」とはつきり言いました。自分たちが開発しているワクチンが何種類かあった手は回らない。その後、2月4日の「コロナに効く」という根拠がない」という発表を見て、メルクはイベルメクチンが使われては困るといって考えた、と悟りました。人命にかかわる問題以外に、お金にかかわる問題がからんでいるのだから。」

新たな変異株が次々と発生し、大半の国民がワクチン接種した国においてもブレックスル感染する者が増え始めている状況のなかで、ワクチンや新薬の利権によって、新型コロナウイルスの予防・治療薬としてその有効性が期待されているイベルメクチンの使用が阻害されているのであれば由々しき事である。

「先日、インドでコロナ感染症の治療ガイドラインを決めている全インド医科大学（All India Institute of Medical Science/AIIMS）の研究グループが、イベルメクチンの予防効

「日本の承認薬を供給する企業とその先にあるアメリカのメルク社がどういふ供給体制にあるのか調べました。メルク社は治療薬を開発中であるせいか、イベルメクチンを使用できない理由」



イベルメクチンを開発したノーベル賞学者・大村智博士

「政府や研究者らの姿勢について」

「南米、アジアなどでイベルメクチンがコロナに効いているという結果をアメリカの臨床医師たち

「政府や研究者らの姿勢について」

「南米、アジアなどでイベルメクチンがコロナに効いているという結果をアメリカの臨床医師たち

「政府や研究者らの姿勢について」

「南米、アジアなどでイベルメクチンがコロナに効いているという結果をアメリカの臨床医師たち